

学長室から

竹屋 元裕

江津湖の夏にあそぶ

この夏は記録的な猛暑だったが、涼を求めて、お盆休みに孫を伴って江津湖にでかけた。じゃぶじゃぶ池には、大勢の家族連れが水遊びを楽しんでいた。じゃぶじゃぶ池は水深が浅く、小さな子供でも安心だ。湖底のあちこちから透明で冷たい水が湧き出ている。この日は午前中にも関わらず気温は35度、一方、水温は19度ほどで年中変わらないという。じっと水に浸かっていると足がしびれるほどである。江津湖は白川中流域の農地からしみ込んだ地下水が、この地で湧き出して出来た湧水湖である。最近の調査では一日の湧水量は約54万トン、熊本地震の時からかなり回復しているという。あらためて熊本市民の貴重な財産であることを実感した。

江津湖周辺には夏目漱石や高浜虚子などの多くの句碑が建っている。高校の同級生である正木ゆう子さんにも、江津湖を詠んだ句が多い。俳壇の最高賞である蛇笏賞を受賞し、2019年には紫綬褒章受章と斯界をリードする俳人で、宇宙空間に思いを馳せたダイナミックな俳風が人気である。

水の地球少しはなれて春の月
木をのぼる水こそ清し夏の月
(正木ゆう子句集『静かな水』
春秋社)

因みに、5月に亡くなった母も地元の俳人として江津湖の句を遺している。

風光る四人のオール揃ふとき

(竹屋睦子句集『カリヨン』阿蘇叢書Ⅲ)

江津湖は俳人のみならず多くの文学者をも魅了した。明治40年、「五足の靴」の五人づれを率いて熊本を訪れた与謝野鉄幹は、熊本の名士たちと江津湖で屋形船を楽しんでいる。紀行文には「熊本の市内と比べると別世界だ、人々は『ああ涼しい』という言葉さえ忘れている」と叙している。温暖化で夏の気温は上がったが、江津湖の水は今も昔も変わらない。



じいじ、おさかながいるよ！

不正アクセス、情報漏洩…地道に対策を

情報セキュリティ研修会

情報セキュリティ研修会が8月23日(金)、I300L講義室であり、桜十字病院参与で本学情報セキュリティアドバイザーの菊池健氏が情報セキュリティの基礎知識や情報漏洩等への対策などについて説明しました。

この中で、菊池氏は、情報セキュリティインシデントの例として、不正アクセス、漏洩、改ざん、損壊、ソフトやデータの互換性喪失等を挙げた上で、不正アクセス防止には二要素認証またはパスキーの使用が必須であると説明しました。また、ランサムウェアや大学における個人情報の漏洩について、事例を挙げながら注意を喚起。生成AIに関しても、AIへの入力データは内部で再利用され、第三者に利用されるため、個人情報の入力についても注意を呼びかけました。

こうした近年の動向を踏まえた上で細かな対策について説明した後、「各種対策を一つひとつ地道に実施することが一番の近道になる」と話しました。(入試・広報課)

個別の事例を挙げながら対策を説明する菊池氏





小細胞肺癌の転移能や増殖能にかかわる、カドヘリンの新機能

肺がんの抜本的治療法への道筋に期待

日本における肺がんの死亡率は、未だに高く男性で第1位、女性で第2の状況です。その肺がんの中には、扁平上皮癌、腺癌、小細胞癌など多様な癌の種類があり、その中で私が注目しているのは、小細胞肺癌です。

H69細胞株という小細胞肺癌の細胞株は、集塊状に細胞が増殖するのに対し、薬剤耐性を獲得したH69AR細胞株では、接着性の細胞増殖形態を示します。この変化に着目し、H69AR細胞株では癌の転移の中心的な役割を占めているEMT（上皮間葉転換）を惹起していることを明らかにし、またカドヘリンスイッチングと呼ばれるカドヘリンの変化が、N-CADHERIN（神経型）からP-CADHERIN（胎盤型）優位であることを見出しました。

現在はこのP-CADHERINの網羅的な解析を中心に行っています。また現在は、3次元培養を組み合わせた検討を行っており、より生体内での環境を模倣する形で研究を行っています。これらの研究を進めていく中で、肺がんの抜本的な治療法に繋がることを期待しています。

熊本市の「こども・学生ボランティア助成事業」

本学2団体の活動採択

熊本市の令和6年度こども・学生ボランティア助成に本学関係2団体の取り組みが選ばれました。「Loversコミュニケーション支援ワーキンググループ」（代表：医学検査学科3年前田茉穂さん）による難病児者とその家族に対する孤独・孤立解消のためのリモート交流支援と、「チームぎんなん〜笑顔の輪を作る会〜」（代表：リハビリテーション学科言語聴覚学専攻2年木村心咲さん）による「タイムスリップ!! 熊本を知りたいモン!」と題した取り組みです。

Loversワーキンググループは、難病団体との交流会や総会でのコミュニケーション活動や総会等でのハンドベルの演奏、パソコン・タブレットを使用した交流会支援を企画。言語聴覚学専攻の2年次生十数人で結成されたチームぎんなんは、ちょんかけごまなど熊本の伝承遊びや地域の探検マップづくりなどを通し、子どもからお年寄りまで年代を超えた交流を計画しています。

こども・学生ボランティア助成事業は、若い世代が考える「市民公益活動」の実践の機会を設けようという取り組みです。小・中学生枠と高校・大学生枠があり、高校・大学生枠の場合、活動に対して10万円を上限に全額が助成されます。（入試・広報課）



「チームぎんなん」が8月に企画したちょんかけごま教室

受験に向けて熱気と緊張感 「チャレンジ熊保大」に250人

本学の推薦選抜対策講座「チャレンジ熊保大!」が8月25日（日）、50周年記念館で開催されました。

この講座は、本学の学校推薦型選抜（公募）の筆記試験対策として毎年開催されています。今回は、同伴者を含めて約250人が参加。熊本県内の大手予備校「壺溪塾」講師の内博文氏（英語担当）、瀬井裕規子氏（国語担当）、淵上智城氏（数学担当）が過去問題を中心に指導にあたりました。会場は、高校生たちの熱気と緊張感に包まれていました。

参加した生徒からは、「大変分かりやすかったです」（熊本国府高校3年）、「教え方が大変面白かったです。より熊保大に行きたくなりました」（東稜高校3年）、「今回の講座を生かして絶対に合格します」（熊本北高校3年）など、これから受験に向けて気持ちを高めていこうとする意気込みが伝わってきました。同日は、同伴した保護者などのために、大学説明会や大学見学ツアーを企画。熊保大の魅力を感じ取っていただきました。（入試・広報課）



英語の対策講座に臨む参加者たち

学生とどう関わる？

令和6年度 第1回FDセミナー

効果的なコミュニケーション探る

令和6年度の第1回FDセミナーが8月26日(月)、1501M講義室であり、約50人の教職員が講演やワークショップ等を通じ、学生との関わり方について考えました。FD委員会主催。

2部構成で行われ、第1部では、熊本大学大学院教育学研究科の黒山竜太准教授が「学生との効果的なコミュニケーション Part 2」と題して講演しました。この中で、黒山准教授は教育の場を「学生と教員の双方にとって『期待』の場」とした上で、相手に対する『期待』とどのように向き合うかが、お互いに安心・安全なコミュニケーションを行ううえで大事」と話しました。講演中は、グループディスカッションやロールプレイなども行われ、普段の学生との関わりの中で起こるすれ違いや、その対策について、教員同士が意見交換を行いました。

第2部では、スモールグループ(SG)担任制度の取り組みの現状と課題について、まず学科ごとに

概要の報告がありました。その後、医学検査学科の教員によるグループディスカッションが行われ、同学科のSG制度の課題と改善方策について活発な論議がなされました。(NL編集部)



グループワークのフィードバックを行う黒山竜太准教授

ことばの相談室

子ども支援へ連携校・園と合同研修

ことばの相談室は8月21日(水)、大学近隣の西里小学校、五丁こども園、西里保育園と連携し、「事例検討を踏まえた個に応じた支援について」をテーマとした研修と情報交換会を同小で開催しました。相談室が取り組む「地域の子ども支援」の一環です。

相談室から3人(松尾朗講師、永友真紀講師、佐藤公美助教)、西里小から10人、五丁こども園から1人、西里保育園から2人が参加し、グループディスカッションや意見交換を行いました。今回の研修のねらいは、今後の円滑な連携を図るとともに、事例を通してそれぞれの職種の視点や支援方法を共有することにあります。子どもたちの「困り感」は一つとは限りません。このため、各職種が対話を通して多様な予測や考えを共有することとしました。

普段、相談室はそれぞれの施設を訪問し支援を検討していますが、関係者が一堂に介してディスカッションを行うことで、より深くそれぞれの立場を理解し、具体的な支援を検討する機会となりました。これからも、それぞれの施設への訪問を行いながら、定期的に情報共有ができる機会を図っていきたいと考えています。

(ことばの相談室 松尾朗)

小学校、こども園、保育園の各職種の視点や支援方法を共有した研修・情報交換会



インフォメーション

週間行事予定(9月3日~9月9日)

9/4(水)	医学検査学科卒業研究発表会
9/5(木),6(金)	職員旅行
9/5(木),6(金)	リハビリテーション学科合同就職説明会(オンライン)
9/6(金)	令和6年度大学院修士学位論文中間発表会